

LOBO調査【全国商工会議所早期景気観測調査】

2021.6月速報 業況DIは長引く活動制約から5カ月ぶりに悪化。先行きは、期待感伺えるも厳しい見方崩れず

全産業合計の業況DIは、▲26.7(前月比▲1.7ポイント)。米国・中国など海外経済回復に伴う需要増が続く半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業のほか、防災・減災を中心とする公共工事に下支えされた建設業が堅調に推移しました。一方で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施に伴い長引く活動制約が足かせとなっている小売業や観光関連のサービス業は、業況改善が見通せないことから、低調な動きが続いています。また、相次ぐ食料品の値上げや鉄鋼などの原材料費上昇によるコスト増加が小売業・卸売業などを中心に幅広い業種で業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感には鈍さが見られます。

【産業別概況と見通し】 前月と比べたDI値の動き ▲改善 →ほぼ横ばい ▼悪化



防災・減災などの土木関連を中心とした公共工事が下支えしているものの、設備投資をはじめとする民間工事が低迷したほか、木材・鉄鋼などの資材価格上昇による収益圧迫が押し下げ要因となり、ほぼ横ばい。
 ・「ウッドショックで木材の価格が高騰しているほか、入手も困難になっており、住宅工事を受注しても作業を進められないケースが出てきている」(一般工業業)
 ・「銅ベースが上昇している影響で電線・ケーブルの仕入価格が上昇しており、採算を圧迫している」(電気工業業)



米国・中国の経済回復に伴い、受注増が続く半導体・電子部品関連の売上が好調なものの、鉄鋼をはじめとした金属材料や小麦粉などの原材料の仕入れ価格上昇が幅広い業種の収益を圧迫し、ほぼ横ばい。
 ・「世界的な半導体業界の活況から、半導体製造装置部品の売上が増加傾向にある」(計量器測定器製造業)
 ・「卵や小麦粉などの原材料の仕入れ価格が上昇しており、採算確保に苦戦している」(菓子製造業)



半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業からの原材料・部品の受注は堅調なものの、例年より早い梅雨入りの影響で価格上昇が見られた農産物関連や飲食料品関連が全体を押し下げ、悪化。
 ・「夏に向けて、空調設備の受注が増えている。ただし、冷媒配管の仕入価格が上昇しているため、今後の採算悪化には注意したい」(電気機械器具卸売業)
 ・「例年より早い梅雨入りの影響で野菜の価格が上昇しており、採算は悪化。加えて、食用油や小麦粉などの値上げが続いており、今後の懸念材料となっている」(飲食料品卸売業)



巣ごもり需要による家具・家電製品などの住まい関連の売上が堅調に推移するものの、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による客足減少が続く。また、飲食料品関連では、巣ごもり需要が盛況だった前年同月比では売上が悪化したとの声が聞かれた。
 ・「巣ごもり需要で盛況だった前年同月と比較すると客単価が落ちており、売上は悪化」(総合スーパー)
 ・「車で遠出を避ける消費者は依然として多く、ガソリンの売上は低調。また、原油価格の上昇が収益に影響してきている」(石油製品販売業)

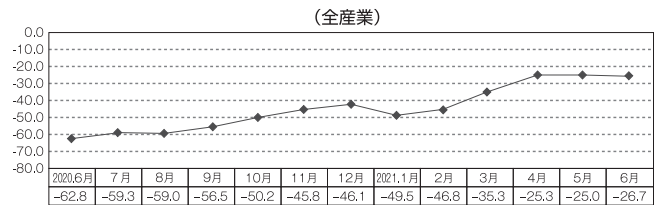


コロナ禍でデジタル投資向けの受注が伸びるソフトウェア業が下支えしているほか、テイクアウトに対応した一部の飲食店の売上が伸び、改善。ただし、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響から、宴会・観光需要が落ち込む飲食・宿泊業では、厳しい状況が続く。
 ・「コロナ禍で、企業からの非接触システムや省力化システムの受注が増えており、売上は改善」(ソフトウェア業)
 ・「地域の飲食店支援策もあり、テイクアウト利用が売上の半分を占めた。今後もテイクアウト向けメニューを充実させ、利用客の増加を図りたい」(飲食業)

業況DIの推移

	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	見通し 7~9月
全産業	▲49.5	▲46.8	▲35.3	▲25.3	▲25.0	▲26.7	▲26.8
建設業	▲27.1	▲24.9	▲18.4	▲15.5	▲18.9	▲19.8	▲22.7
製造業	▲48.5	▲44.8	▲33.6	▲24.1	▲15.0	▲14.6	▲18.4
卸売業	▲49.0	▲47.7	▲35.0	▲27.0	▲23.9	▲25.8	▲28.8
小売業	▲49.5	▲45.8	▲33.9	▲23.5	▲31.6	▲41.8	▲35.7
サービス業	▲64.7	▲63.0	▲48.5	▲33.5	▲33.5	▲30.6	▲29.6

※見通しは、当月に比べた向こう3ヶ月の先行き見通しDI



※調査期間：2021年6月15日~21日

全国337商工会議所が2,668企業にヒアリング(東北については、被災を免れた企業や被害が軽微な企業から回答)

※DI値(景況判断指数)

業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準として、景況感の相対的な広がりや意味する。

県内企業倒産発生状況

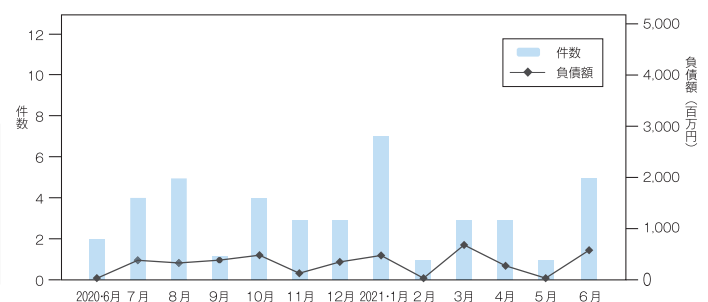
件数・負債総額共に前年同月より大幅に増加

〈令和3年6月概況と見通し〉

県内の経済概況評価は、引き続き観光、宿泊、飲食等の対面サービス業は厳しい状況にあるものの、製造業や対面サービス以外の非製造業の復調傾向を背景として、前月判断を維持、項目別も全て据え置かれました。新型コロナウイルス対応の資金支援や給付型のバックアップを背景に倒産件数は抑えられて来た中で、10都道府県にて発令されていた緊急事態宣言が6

月20日に解除された他、ワクチン接種拡大等により経済活動の活性化が期待されています。その反面、ウッドショックに見られる様な原価の高騰も各方面で生じており、業界によっては採算確保が難しい局面を迎える可能性も高まっています。身を置く場所によって明暗分かれる事が予想される中で、先行きの不透明感から事業継続を断念する『あきらめ型倒産』が今後散発する可能性があります。

山形県 月別倒産件数 負債額



	東南置賜		山形県	
	件数	負債金額 百万円	件数	負債金額 百万円
令和3年6月	1	120	5	506
前月比(%)	100.0	300.0	500.0	1,265.0
前年同月比(%)	-	-	250.0	1,234.1

東南置賜…米沢・南陽・高島・川西

協力/東京商工リサーチ